

植和
堉堉

東亞書院藏

No.	13
函號	5
書號	272
內閣	

內務部圖書	
第二十七番	
號	部
冊	全

衛生局
卷廿
登
篋

471.9
Ki
11617

木圖說

前編

有毒草木圖說



明治九年購求

凡例

一本草に業をとり博たう諸品乃氣味能毒
小至るはいよく究極をさう然る尋常所有
乃草木正しく毒あり人あざる者數多し
まのり或ハ枝葉を蓋盤に布る散枝を盛或
々花實ハ軒膾に雜へる觀美を取或ハ兒童
採る漫る玩る或ハ飢饉に収る妄に啗ぬ
往々其害被るを見たりとれ予竊に
おとし憂懼するや已に公し嘗て考驗

有毒草木圖說

凡例

一

と所亦多し因る詳し其物に名狀具録
一 一巻の書を草定めて昧者に授ふの
一 毒の有無微甚諸説一同ある者多し其是非
を論定するはわづらひ大率本草乃書先輩
の説に據るこれに擧ぐ
一 凡果菜乃類日用膳食子供する物といへども性偏
に人子利ある者多し然れども有毒草
木乃類と混同すべきもの因て其類は以
め別を附録し

乙
179
P.
1

一番木鼈巴豆等は類和産する者ありては省く奇品
 異物も亦わづら尋常ある者といへども或る遺漏
 をせぬをば識者補成候仰ぐなり
 一 毎品漢名の下に其出處を記し漢名いまだ詳
 せざる者ハ國字を以てわづら擧ぐ漢名の
 旁和名候記しといへども方言甚だ多く盡
 事を擧げしめぬる者覽者或る耳に慣
 ぶ所もあはるべし其は之を於所ハ圖
 按しこれを領と爲し

有毒草木圖説

九例

二



圖印鑑以先成者序之



真昭



成田



木部



弘行



沼田



舎人



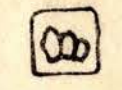
重信



曲淵



間宮



大田



吉田



高憲



矢部



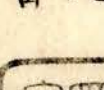
水谷



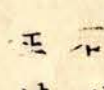
神谷



浅尾



石川



岡田



平野



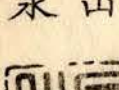
知棟



松山



古瀬



清齋



平野



知棟

有毒草木圖說



古川



神原



忠博



岡本



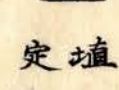
戸田



時習



横井



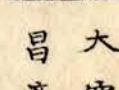
定國



江原



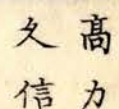
大窪



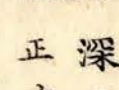
水谷



高少



高力



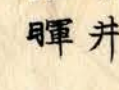
深田



赤井



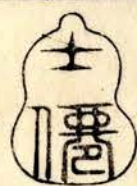
維暉



小瀬



正種



奥田



石川



舎人



重光

書

深田正韶



有毒草木圖說前編目錄

烏頭

ゆきゆづり

曼陀羅花

芥葉鉤吻

續隨子

澤漆

大蓼

女青

索吾

毛茛

叢菜

大麻

牽牛子

天南星

虎掌

蔓生鉤吻

大戟

蘭茹

半夏

鳳仙

石蒜

及己

水胡椒

野芋

蓖麻

きぬた

びきりあゆみ

斑杖

草本黃精葉鉤吻

甘遂

草蘭茹

高陸

射干

大黃

訶藟

石龍芮

山慈姑

蕁麻

博落迴

有毒草木圖說

狼牙

三白草

貫衆

牛扁

馬蔘

きけまん

地湧金蓮

葭蓉

六十二品

藁耳

あしひこ

赤車使者

仙茅

防葵

虎杖

馬兜鈴

苦瓠

豨薟

蒺藜

鳶尾

白屈菜

紫堇

一瓣蓮

玉簪

有毒草木圖說前編

張府

舍人清原重巨輯

男

重光校

烏頭

本草綱目

大毒。つゝふきに二種あり。山中自生。乃者。草烏頭と云。ぬ毒甚
く深。春宿根より苗を生ず。高は三四尺。莖弱く直立せず。葉
歧。成なり。互生。秋葉間。毎子花を開く。深碧色。大率一綴
二三花。狀粗。伶人乃烏冠。子似たり。又濃紫色。白色あり。白色の
者。残るなづくと云。ぬ。今人家に栽る者。ハ川烏頭と云。ぬ毒
草。烏頭より稍浅。葉厚く。深綠色。光澤あり。莖強く直

有毒草木圖說

前

立。花濃紫色。狀草烏頭。乃花子異なり。ふと。ハ凡烏頭ハ其
母附子ハ其子。側子ハ附子。は旁に生じ。附子を栽。子成。生ぜり。
て長大。乃者。天雄と云。ぬ。是皆根の名なり。本草綱目
烏頭。釋名云。時珍曰。草烏頭。取汁。晒為毒藥。射禽獸。と蝦夷
子。於。附子。成。採。蜘蛛。蕃。椒。を加。ハ。色。を搗。き。煎。ト。て
凝。たる。毒。汁。を。竹。箭。に。塗。る。禽。獸。を。射。る。これ。成。ぬ。す。とも。や
と。き。け。や。と。云。ぬ。其。毒。の。深。く。成。知。べ。綱。目。に。射。罔。と。云
ぬ。是。なり。





天南星 本草綱目

やまふしん

大毒あり深山陰地に生ず其根圓塊一莖獨出淡綠色白斑あり葉
二莖一莖六より一莖一莖一莖成抽き花を開く綠色紫
黒色の間道あり又綠色乃者あり秋に至て葉枯き實熟き
を赤色美なり謬るあれを食むとバ忽舌唇腫喝を懼べき
者なり綱目本條は由跋と云ぬあり一説ふむさーあぶに充る

を非なるに似たり由跋ハ即天南星

乃嫩根なり



天南星

むさしあぶら 天南星一種
漢名未詳

大毒あり深山陰地ニ春生む獨出莖小白點あり葉二莖互生一莖に
三葉光澤あり花莖頂ニ生ト外綠色白色の間道あり内紫黑色花後
實を結ぬ秋ニ至ト葉枯ト實熟トハ赤色天南星の實乃如
其毒天南
星ニ同ト 懼べき者なり



天南星種

有毒草木圖説

前

三

あさむしりさう 天南星一種
漢名未詳

大毒あり深山陰谷ニ春生む獨出莖小白斑點あり葉一莖に三
葉淡綠色花莖頂ニ生ト白色心中に圓莖あり其形粗佛の後
光ふ似く莖を覆ぬ其毒天南星ニ同ト懼べき者なり

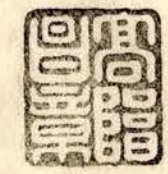


天南星種

虎掌こしょう

本草綱目

大毒あり深山陰地あんさんいんち小春生こはるせいど天南星てんなんせいに似て其根圓塊そのねまるい葉はまひ
づるてんなんまやうけ如ごとく子こく長ながく莖くきに白斑はくはんあり花中長はなちゅうちやう莖くき
を出いし地ち子こ及およ姁誤おぼふとを食くむれば天南星てんなんせい子こ同おなく懼おそへき
者ものなり



有毒草木圖說

前

四

斑杖はんじやう

本草綱目諸葛集解

大毒あり深山陰地あんさんいんち小春生こはるせい其根圓塊そのねまるい一莖獨出ひとくち紫黑色乃爛斑らんはん
何いか葉は二莖ふたき一莖ひときハ大おほり一ひと莖きハ小こ其形天南星そのかたちてんなんせいの如ごとく
ふく混ま易やす誤あやてこれを食くむれば天南星てんなんせい子こ同おなく懼おそへき
者ものなり



曼陀羅花 本草綱目

毒あり春下種も茹乃葉に似く淺綠色莖柔軟
 秋花を開く形牽牛花に似く
 筒長く白色白蓋あり花謝まれ
 バ實を結ぬ刺あり一花終るバ
 末に亦一花開く
 枝毎に此乃
 如く誤る
 あれを食
 るれば忽發狂を懼
 べー然ども毒解を
 多バ害あり



有毒草木圖說

前

五

蔓生鉤吻 本草綱目

大毒あり山中に多し蔓生鬚根有く樹木岩石に蒙る葉莖赤
 色一莖に三葉秋に至る紅色後凋落以夏葉
 間ハ小黄花を開き實を結ぬ皮に毛茸
 あり粗五加の實乃如く誤る大毒を食
 るとも古唇腐爛し死に及ぬ
 懼べき者なり



草本黃精葉鉤吻

本草綱目鉤吻正誤

大毒有り深山に生じ春宿根有り苗を生じ葉黃精に似る柔
軟三四葉互生し縦文紫色莖淡紅色葉間に四瓣乃花下垂淡
綠色心中黒色花後實を結ぶ誤るを食すれば忽舌が割
唇爛れ死に及ぶ此葉を採る飯中に雜へ鼠に飼バ即死を懼
べき者有り木本黃精葉鉤吻ハ後卷木の部小擧ぐ



有毒草木圖說

前

六

芥葉鉤吻 金匱要畧

大毒あり春池澤に生じ葉白芷に似る夏花が開く胡蘿蔔
の花に似る白色微小莖頂小櫛蓋に莖中空虛大なるものを
三四尺小及ぬ誤て

なる



大戟

本草綱目

大毒あり 初生葉淡赤色形粗金絲梅乃葉に似る互生をあれと
摘バ白汁出ハ莖頭ニ五莖分ち三葉生ト亦頂小二三莖發
一ニ葉生ト夏花成開ク四瓣淡紫色黄色を帯ブ花後實
成結ぬ



有毒草木圖說

前

七

甘遂

本草綱目

毒あり 春山中及び原野に生ハ初生葉紅色大戟に似る短
莖頭小五葉生ト五莖分ち其末ニ二葉對一莖を分ち頂
ハ二葉生ト花を開ク黄紫色大戟の花に似る早一實を結
ぶ亦大戟乃如



續隨子

本草綱目

毒あり初生細葉互に對生以上至五葉生ト莖を分付
 色を摘む白汁出ハ莖末に亦莖を分ち二葉生ト花を開く
 紫黄色花後實を結ぬ旁より亦二葉生ト花を開き實
 を結ぬハ初如其實圓く扁ハ一三道あり熟
 くとバ三裂ハ中小子何れ



有毒草木圖說

前

八

蘭如

本草綱目

小毒何冬宿根より生ハ紅紫色春に至リ一尺餘葉互生
 莖葉ともに白汁出ハ莖末に
 と分ち其末二葉對生ハ四瓣の
 花と開き實
 出ハ



草蘭さうらん 本草綱目蘭茹集解

毒ある河邊及び湖澤の旁に生ず春早く芽發せ淡紅色長む
 葉二三尺小及び葉蘭茹に似る淺綠色末小至るハ黃色五葉
 對生五枝を分ち其末三葉對一五瓣淡黄色の花を開く其根白汁
 出さく



有毒草木圖說

前

九

澤漆たくしつ 本草綱目

小毒ある秋海邊に生ず春に至る長け葉互生して密小
 著く粗馬齒莧の葉に似る薄く細鋸齒あり其葉白汁
 出は莖頭小五葉對生一五莖を分ち四瓣の小花を開く



半夏 たんげ

本草綱目

毒あり春園中處處に生ず葉莖乃末子三葉成著く粗野
茨菰の葉子似たり花別子生じ莖頭即花なりと心中に莖あ
る天南星は花乃如し誤るふを食ふと忽ち戟喉甚
じ或る葉形の異なる者又齊州半夏附方たりとんげ
等あり其一種なりと



有毒草木圖説

前

十

商陸 あぐり

本草綱目

毒あり陰湿乃地小生ず葉煙草に嫩葉に似る尖り毛茸な
し夏莖末に葉莖と相對して白花成開き穂成ると水芹と
同食すべし又紫花成開く者を赤昌 同書集解と云ぬ毒甚
深し必む食さずべし 又黄花の者あり其一種なり



大蓼 たいりょう

救荒本草

毒あり蔓草春葉を生一節毎に二莖兩對一莖に本二葉末
三葉生ト其葉莖成以々樹竹子纏ぬ秋白花を開き攢簇以誤
てみそや啗ハ齒損ぞ



有毒草木圖說

前

十一

鳳仙 ほうせん

本草綱目

小毒あり春下種以葉莖俱ニ柔軟莖に節有夏小至花
を開く紅色白色雜色重瓣あり形鳥の翅あり如く花後
實成結ぬれを捻まバ錠子劈て及開以誤く醋と同食せれば
甚く毒あり又ほらがひさうと云ぬあり深山に生ハ黄花紫花の
品あり其一種なり



射干 ひあふぎ

本草綱目

毒あり春葉を生じ初生鳶尾の葉に似る白粉を帯び夏莖
頭より枝を分ち花を開く六瓣紫點あり或ハ黄色又點あり者
葉形の異なる者あり



有毒草木圖説

前

十三

女青 ぢやせひ

本草綱目

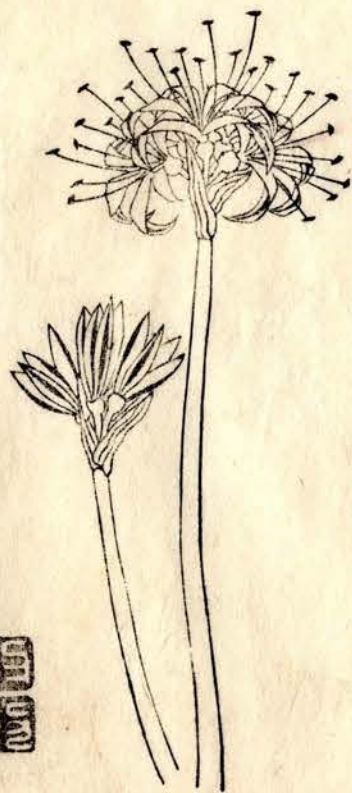
小毒あり草生蔓生の二種あり草生の者ハ蛇含の根なり
爰に挙る者ハ蔓生なり野邊竹林中に多し葉兩對毛茸
あり夏葉間に筒花を開き實を結ば冬に至り熟すれば
黄褐色誤てあま粥食すれば血吐



石蒜 セキサン

本草綱目

小毒あり山野小多し冬葉残生し夏ふ至り枯腐し草を
 ぐ如く秋一根一莖残抽し莖頂小六瓣赤色乃花攢簇を小
 見株くわを食されば言語拙く故ふまづの名あり
 又鐵色箭石蒜官人草述異ハ其一種なり
又鐵色箭集解



有毒草木圖說

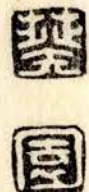
前

十三

大黃 ダイオウ

本草綱目
和漢通名

毒あり和産なり漢種を傳へ我其子生ぐか根を剪り我
 べ其葉桐葉に似く廣く錦齒あり夏莖を抽し五六尺小及
 び葉互生し末に花を開き穗をなす
 花後實を結ゆ



藁吾

正字通

毒あり陰湿乃地小宜一葉冬を經く凋まば春嫩葉を生じ
款冬の葉れ如く厚く深緑色光澤あり秋心中より莖
を抽ぎ莖頭小枝を分ち黃花を開く砂糖と同食せら
らば大小毒あり



有毒草木圖說

前

十四

及已

本草綱目

毒あり山中陰地小生ば春苗を生じ高さ一尺許莖小節あり
莖末に二葉相對し四葉參差に頂小二莖を生じ白花を開
く或は白花絲乃如き者ありまゆをけらると云ぬ其一種
なり



紫葳

本草綱目

毒あり蔓生鬚根有る樹木に倚る生る春葉を生じ鋸齒
深く夏花を開く筒をとり瓣五岐末圓く尖らん赭黄色花
後葉を生じ此花乃露目に入るバ即病又妊婦其花香を忌む



有毒草木圖説

前

十五

毛茛

本草綱目

毒あり春宿根より生じ葉面斑爛あり黄色五瓣の花を開
く或る白花の者をぎんぎけと云ぬ又千瓣の者あり
其一種なり誤て小豆を食むれば發狂吐血す



水胡椒 水胡椒 救荒本草

毒あり田野水邊小生。葉冬を経る萎まば浅緑色毛茸あり。春莖拔ち花を開く五瓣黄色花後實を結ぬ。



豊文

有毒草木圖説

前

十六

石龍芮 石龍芮 本草綱目

毒あり。秋冬より水田中に生ず。毛莖葉小似る毛茸なく。光澤あり黄緑色。春莖を抽て高さ二尺枝を分ち五瓣の黄花を開く。毛莖花小似る。小く光あり。後實を結ぬ。

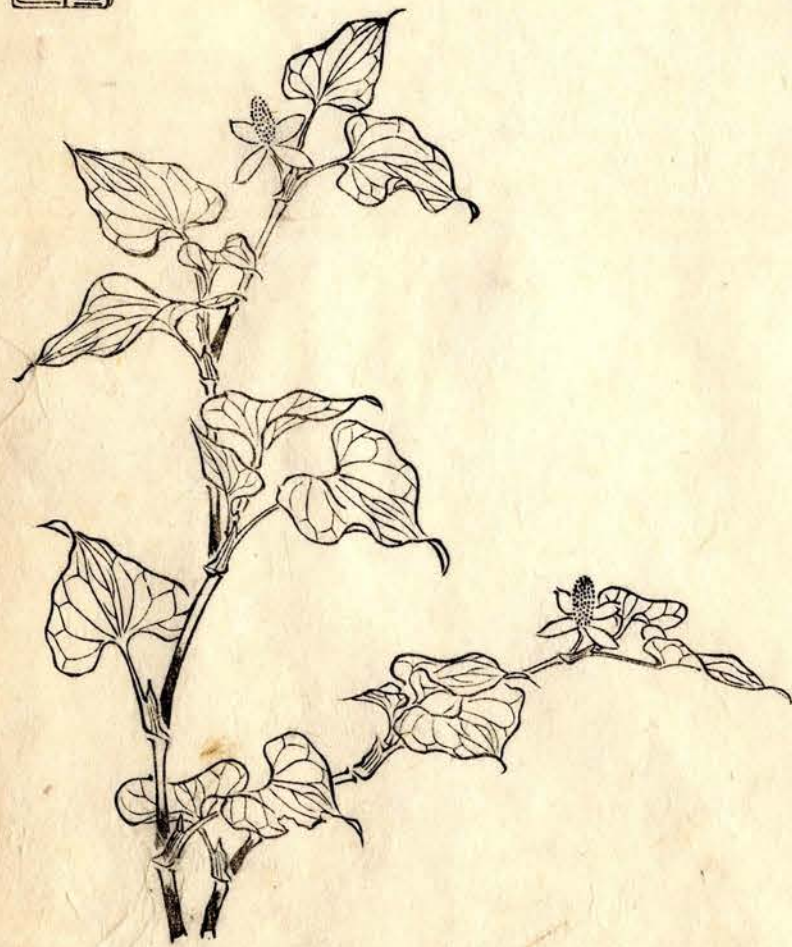


豊文

蕺菜もろこし

本草綱目

小毒あり處々に生じ臭氣あり其葉初生紫色莖紅紫色或
 ち葉面綠色葉背紫色乃者いつ夏四辨乃白花を開く
 莖小節あり



有毒草木圖説

前

十七

野芋やいも

本草綱目芋附録

大毒あり暖國海邊乃産して寒を畏る夏葉茂盛生け白芋に
 似る光澤あり莖白芋より短く根亦白芋に似る大なり誤て
 ふを食むれば煩悶し重きハ死ふ及ふ懼べき者あり
 故にぞいもくをばいも
 の名あり





山慈姑 本草綱目

小毒何と山野小生に葉綿棗兒の葉に似たり其嫩時々
 一根小葉老根小及で二葉生に心中より莖抽出末子小
 葉對生一頂小花を開く六瓣白色外小紫條あり花後實
 を結ぬ



有毒草木圖說

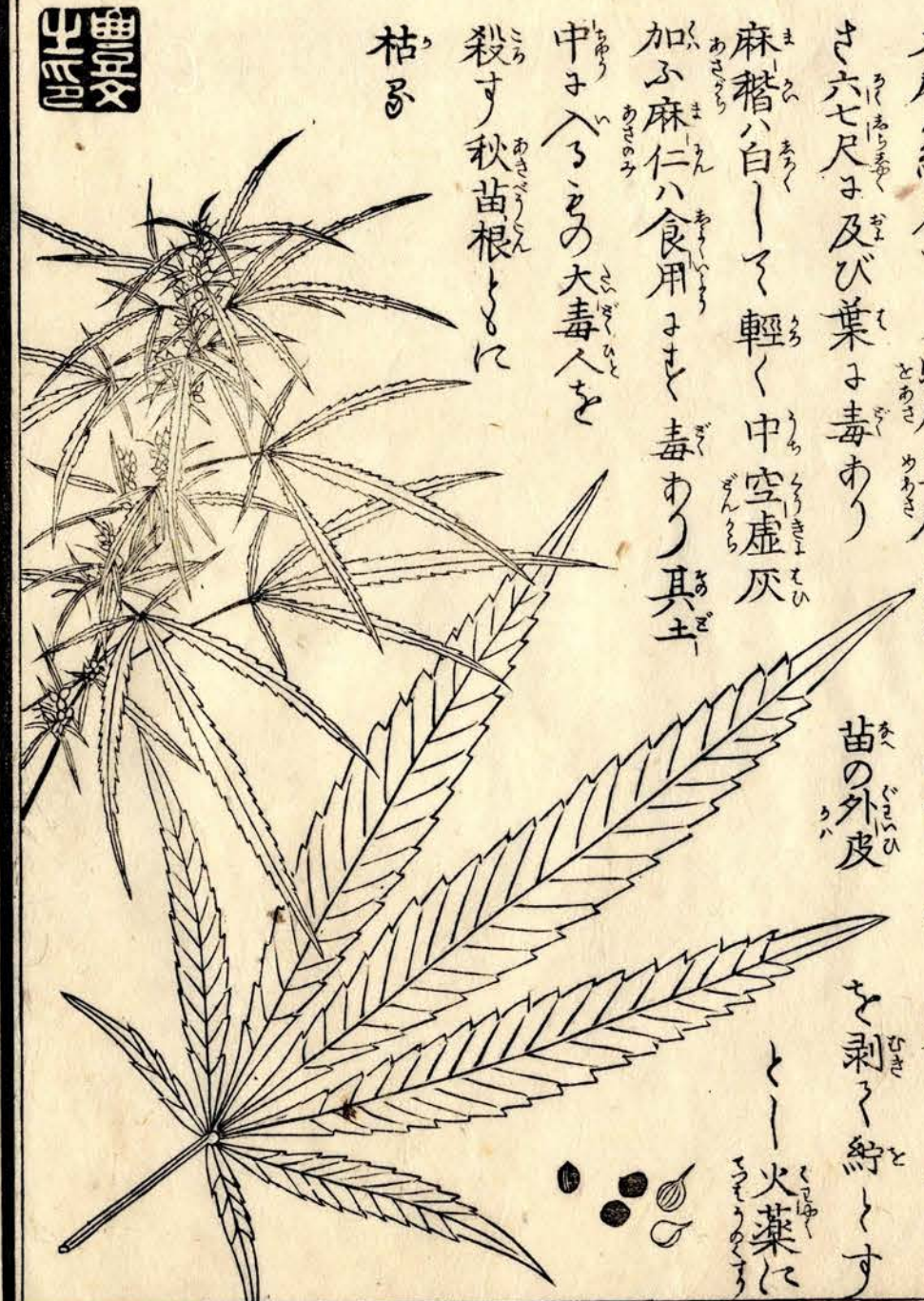
前

十八

大麻

本草綱目

大麻ハ總名なり牡麻苴麻乃別あり性譜子拳ぐ春子を播く高
 さ六七尺子及び葉子毒あり
 麻摺ハ白く輕く中空虚灰
 加ふ麻仁ハ食用子と毒あり其土
 中子へるこの大毒人を
 殺す秋苗根もとに
 枯る



蓖麻 ひま

本草綱目

小毒あり春下種も莖竹の如く中空虚八九尺子及び粉緑色
 葉互生一六歧鋸齒あり白粉を帯ぬ莖末乃葉間に花を
 生む黄色密なり實を結ぬ刺多し
 此仁を搾り印色の油とて上製

ふあべ



有毒草木圖説

前

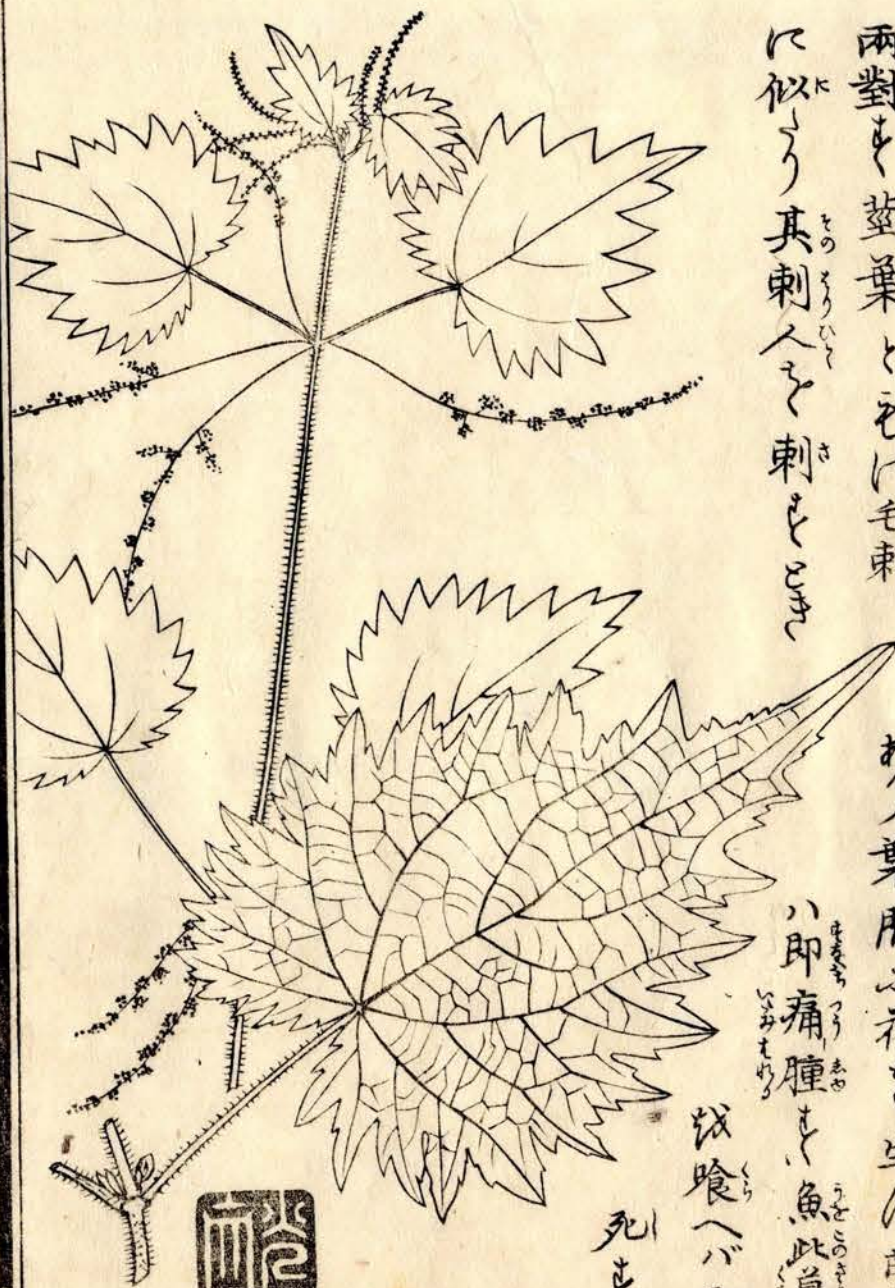
十九

荨麻 あんま

本草綱目

大毒あり山中陰地小生む高さ二三尺葉苧麻に似る深緑色
 兩對も莖葉と毛に毛刺
 に似る其刺人を刺ると毒
 あり葉間小花を生じ苧麻
 ハ即痛腫も魚此草汁
 以喰ハ即

死す



牽牛子 あまのけし 本草綱目

毒あり春下種は葉三尖淺綠色夏より秋に至る花を開く葩
 五尖碧色筒白色花後實成結ぶ三縱道中に子あり白色の
 者或白牽牛黑色乃者を黒牽牛と云ぬ此葉に虫生ぜば
 子を搾て燈油とす是ハ諸虫近づく
 て燈油とる綿子ハ毒あり者なり
 又綿子を搾



蔓

有毒草木圖説

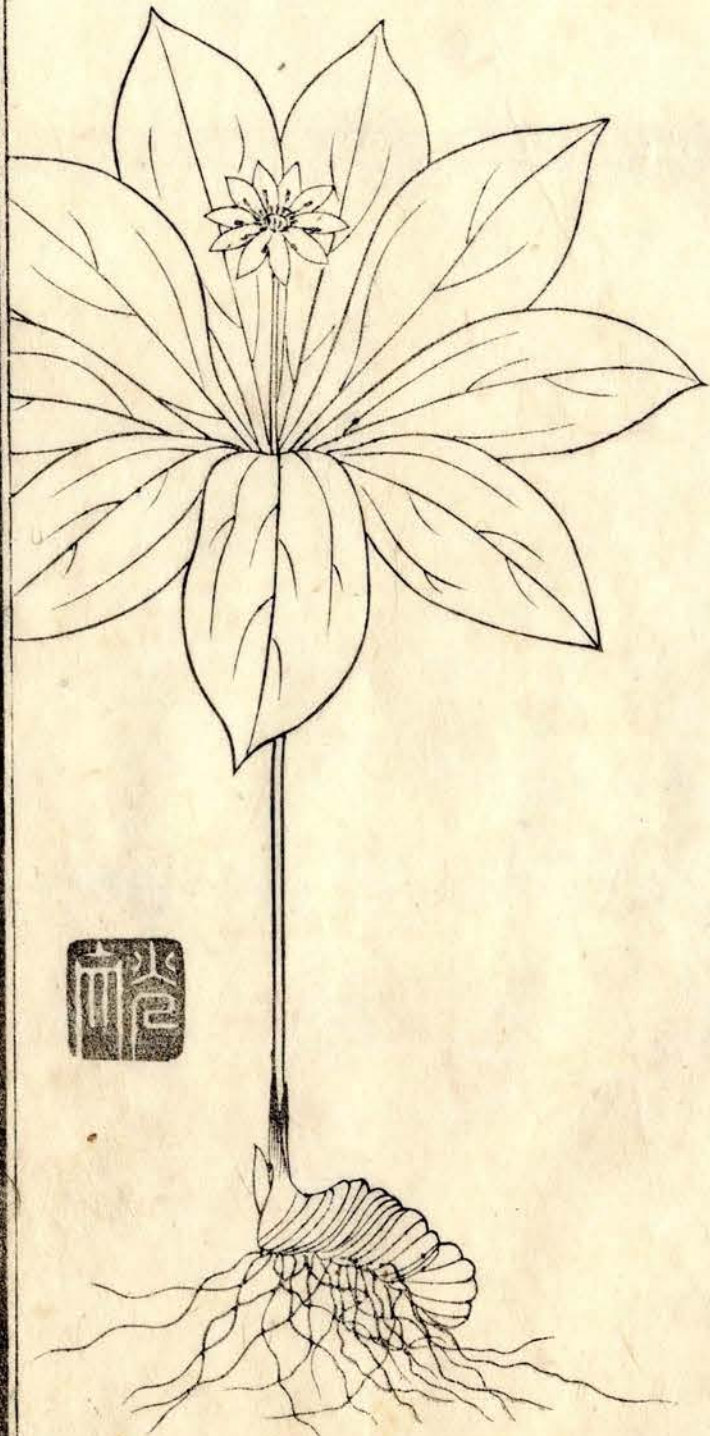
前

二十

きねぐさゆ

蚤休 本草綱目 種
 漢名未詳

毒あり山中に産する春一根ハ一莖成生ハ高さ一尺許莖頭ハ
 八九葉生じ傘の如く夏心中小莖成生じ一花を開く十瓣淡
 紫色深紫色乃文理あり黄莖を垂る蚤休和産いふ詳なり



根

博落迴 本草綱目苧麻附錄

大毒あり 山中に生ず 春舊根より 苗を生じ 圓莖節あり 中空 虚

高さ五尺 小及び葉 菊葉の形に似る 尖

尺に迫り 莖葉俱に 白綠色 小を截

黄汁出づ 夏莖頭に 小白花を 開き穂を

後 莖を結ぶ 扁薄 両頭尖る 中



大さ

色バ赤

小

黒子あり

此草竹を

煮に用

小

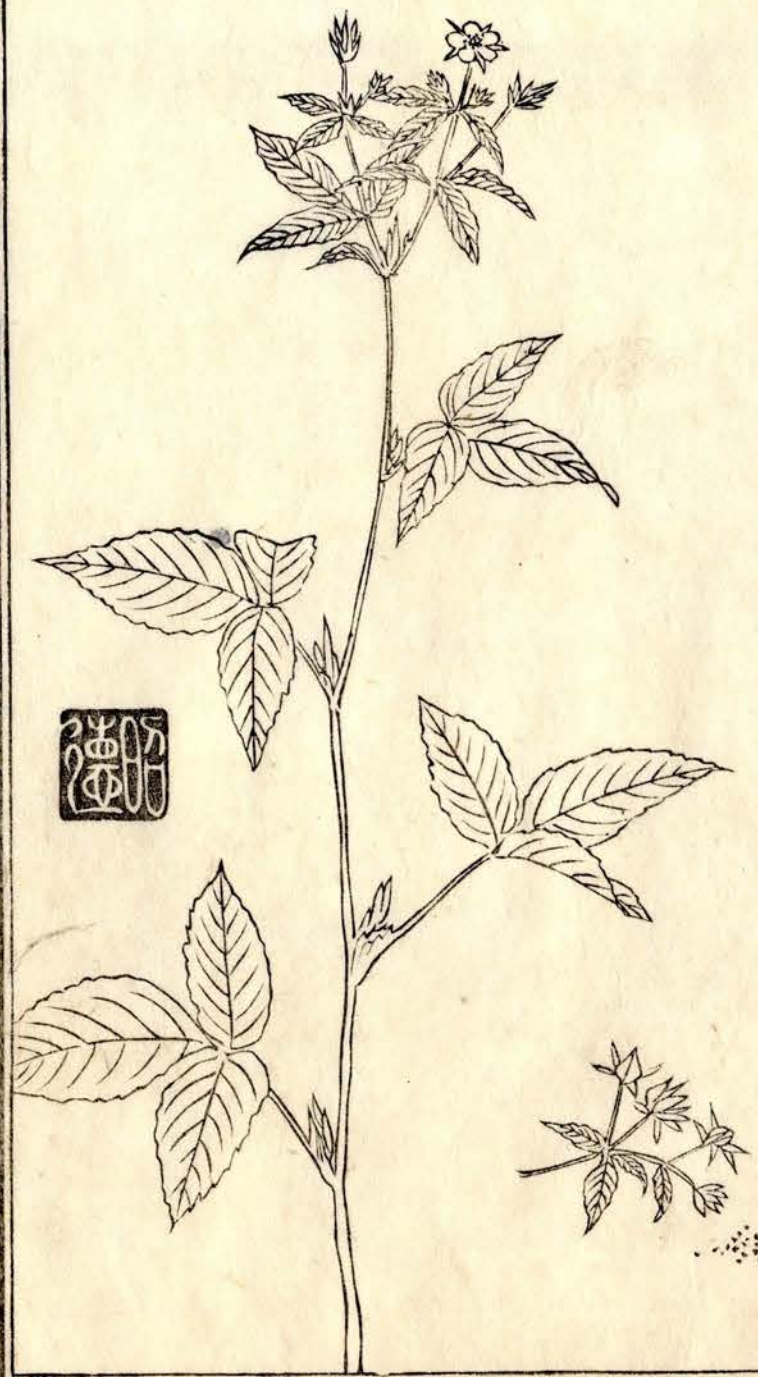
有毒草木圖説

前

三

狼牙 本草綱目

毒あり 深山に生ず 高さ二尺 葉一莖に三葉 蛇莓葉に似る 毛茸あり 夏花を開く 五瓣 黄色 蛇莓花小似る 小なり



藁耳こやしみ

本草綱目

小毒あり春處々叢林中に生じ秋後苗枯る高さ四五尺ふ及び
秋花を開き實を結ぬ兩頭尖り小刺有る衣小粘着を誤
て米泔と同食されバ大毒なり



有毒草木圖説

前

二二

豨薟しやん

本草綱目

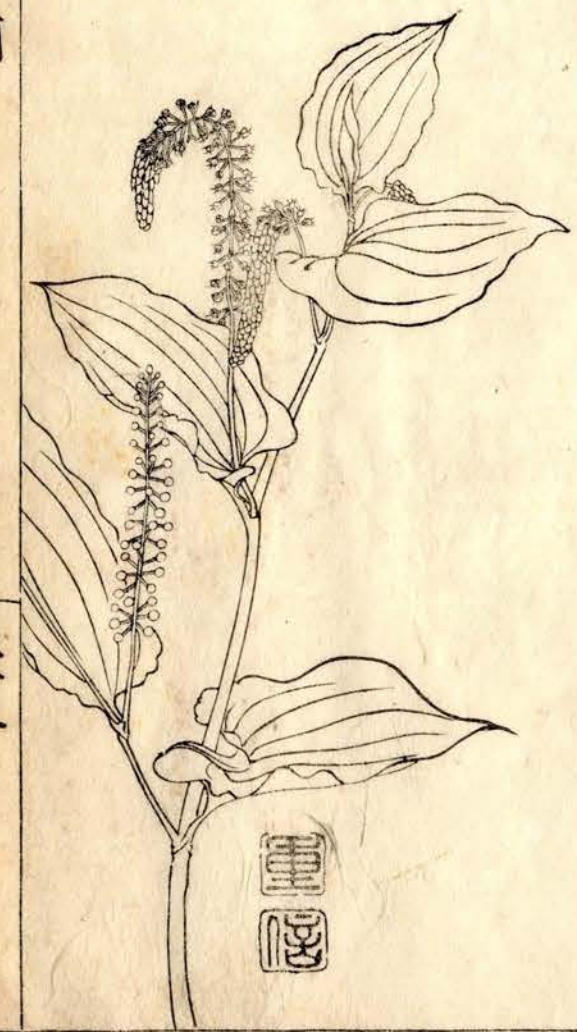
小毒あり宿子より處々に自生枝葉兩對し鋸齒あり淺綠色
毛茸あり秋枝を分ち小黄花を開く其莖五に分ち粘滑ふ
ろく手に著易し莖上に小棘あり實を結ぬ熟するに及ぶ
苗根と色か

枯る



三白草 本草綱目

小毒あり水草なり陸地にも生ず春莖を抽ず葉互生し臭
 氣あり半夏生乃時小至て莖末は三葉白色小変は其頂は
 小白花を開き穂状なり



有毒草木圖説

前

二十三

やへくじん

萱草 本草綱目 一種

毒あり春宿根より葉を生じ夏に至る心中より莖を抽き
 重瓣紅黄色の花を開く



萌蘗

本草綱目

毒ありて野邊に生じ葉梅骨木の葉に似て微長く厚く西
 對臭氣有り高さ三四尺夏莖末に白花を開き後實を結ぶ
 誤るあれを食むれば卒嘔暴瀉も又接骨木細目の新芽を採り
 壅と一食する者あり
 暴瀉も妄ふ食も
 かり一名木萌蘗



有毒草木圖說

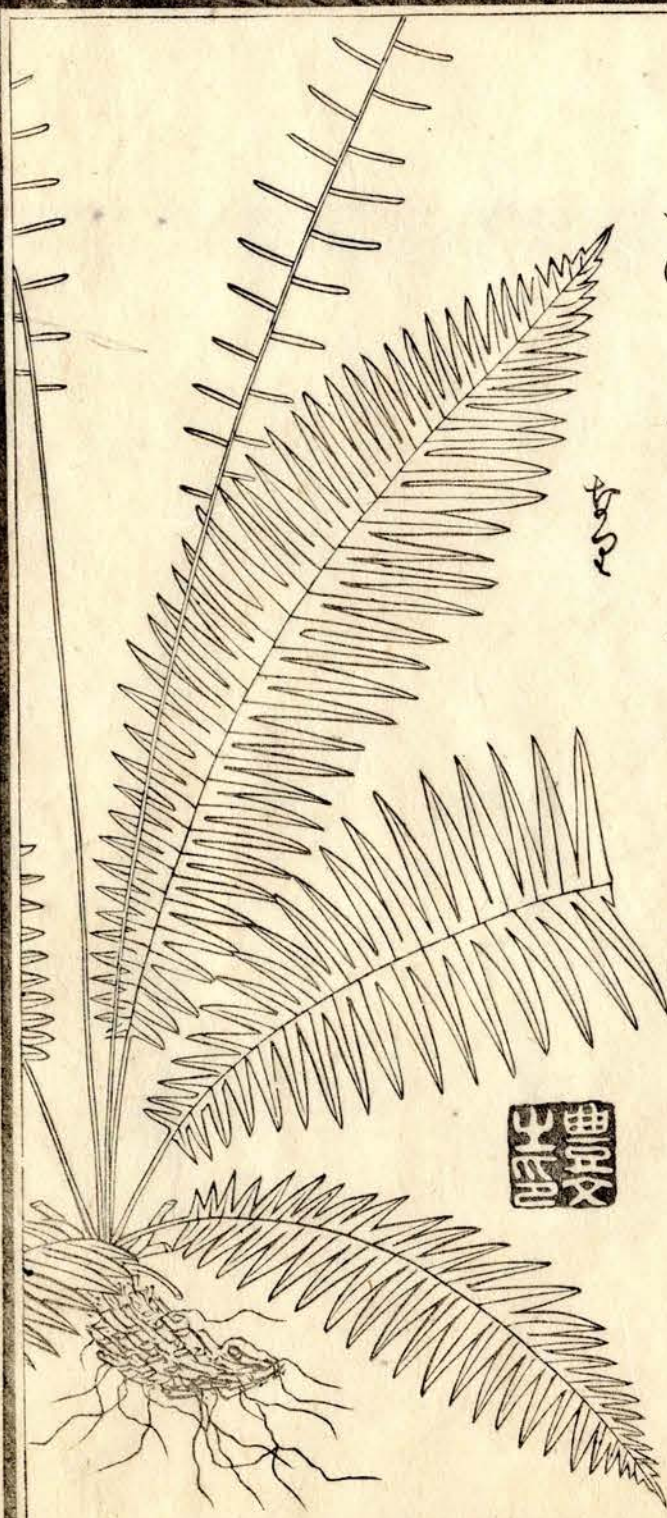
前

二十四

貫衆

本草綱目

毒ありて深山に生じ根數葉一葉數十の細葉を着く長は二
 尺深綠色冬を経て凋む夏別小葉乃形小く細莖褐色の
 者一二莖生じ是即其花なり或説に婦人此葉を服むれば妊
 せむと云ふ然るを妄ふ用へるは又くさるてつと云ふ者ハ其一種



赤車使者 本草綱目

毒何ぞ深山溪側陰地少く生じ莖斜ふして直立せし根上
 濃紅色葉糙葉樹乃葉に似て互生し夏葉間に細小白花を
 開き櫛簇を蛇過食せしと記此葉を喰む即消食也



昌福

有毒草木圖説

前

二十五

鳶尾 本草綱目

毒何ぞ處處園中栽葉冬成經る萎また春新葉成生じ
 射干の初生葉に似て柔軟直立せば心中より莖成抽る六瓣
 乃紫花成開く白花の者あり其一種なり



昌福

牛扁ぎうへん

本草綱目

毒あり山中溪澗の旁に生じ葉草烏頭の葉に似て鋸齒あり夏莖を抽じ葉互生し秋小至て莖末に花を開く薄紫色花後實を結ぬ



有毒草木圖説

前

二十六

仙茅せんぼう

本草綱目

毒あり漢種を傳へ栽る春宿根より葉を生じ浅緑色夏葉莖乃旁に細莖成生し深黄色六瓣の花を開く形状委しく性譜小拳く



白屈菜 救荒本草

毒有り處々叢林中に生じ四時苗あり葉面淺綠色背白色莖葉毛茸あり春夏乃際より秋に至るまで四瓣れ黃花を開き莢成結ぬ莖葉を截ハ黃汁出臭氣あり



有毒草木圖說

前

二十七

馬薊

本草綱目

毒有り春田野溝瀆乃旁に生じ品類多く辛味あり食用に堪ざる者あり爰に拳るもの高さ三四尺に及び葉肥大あり葉面に黒斑有る秋に至り細小白花を開き穂をなす花後細子成結び冬苗枯る



防葵

本草綱目

毒あり暖地の海濱に生じ葉牡丹葉に似く肌滑ふりて葉面白粉を帯ぬ夏に至り高さ三四尺及び梢毎に白花を開き積簇も當歸川芎乃花の如く花後實を結ぬ



有毒草木圖說

前

二十八

紫堇

本草綱目

微毒あり處處樹下陰地に生れ秋苗を發し冬地中就生じ葉芹葉に似く細く柔にして莖紫色春小至り尺許の莖を抽し頂小紫花を開き簇生し形延胡索乃花に似く後莢を結ぬ熟する時物に觸る莢自れり裂け子飛ぶ夏後苗根俱に枯る



まけもん 紫堇一種
漢名未詳

毒あり 樹陰路邊或ハ垣砌の間小秋後苗を生ズ冬凋ふま
葉芹葉の如ク白色を帯ぶをを断きバ黄汁出いハ惡臭
何い春はるに至いたリ莖を抽ひク黄き花はなを開ひらク
延胡索の花子似にと
おろしと



有毒草木圖説

前

二十九

虎杖

本草綱目

毒あり 春宿根すくね生なズ初竹筍の如ク圓茎中空くう虚きょりて
葉互生ごせい秋葉間小穗こそうをなズ小白花せうはくはな攢簇さんさくと實の形大黃
乃如ごと妊婦食にふくもも其子腹臭ふくさうあり
もろみ



一辨蓮 秘傳花鏡

毒り深山池澤の旁小生じ葉莖短く柔軟淺綠色春の末
 早晩の葉も間より短莖を生じ一辨乃白花を開く粗匙
 頭乃如心中に緑蕊あり又葉面は黒斑あり者あり其一種
 なり



有毒草木圖説

前

三十

地湧金蓮 秘傳花鏡

毒り深山溪澗水澤中に生じ冬より蕾を生じ早春に
 花を開く高さ二三寸許形天南星の花に似く短く紫黒色
 心白色紅を帯ぬ花後葉を生じ形玉簪の葉に似く圓
 く厚く實を結ぬ
 熟して赤色天南星
 乃實に如く



馬兜鈴

本草綱目

毒あり蔓草春葉を生じ毛茸あり夏花を開く緑色紫色を帯ぶ秋實を結ぬ鈴の如く中に扁子あり



有毒草不圖說

前

三二

玉簪

本草綱目

毒あり處々に栽る剪花より春葉を生じ綴文あり夏莖を抽く白花を開く六瓣長蓋あり正開せば一々著む花後莢を結ぬ中に小黒子あり紫萼
乃かんざー等ハ其一種なり

紫萼 池南 群芳 乙くだまをぬ



良莠

本草綱目

大毒あり 深山幽谷に生む 春宿根より 苗を生む 紫黒色
長むとバ 淡緑色 高さ二三尺 葉商陸葉に似る 狭小葉 間小
筒花を開く

末五辨 沙参に如く 花後實を結ぶ 根
山卑薺の如く 誤るゝ食され
バ 狂氣して 奔走に故ふる こと
ころ乃名あり



本草綱目

有毒草木圖説

前

三十二終

苦瓠

本草綱目

毒あり 春子を播く 原種 壺盧と一類に 蔓莖葉もに
壺盧 小同ト 夏暮 五辨 乃白花 咲開き 旦に至る 即萎む 亦
壺盧に同ト 瓠 成結 ぬ青
至る 熟に
緑色 氣味 甚く 苦 秋に



本草綱目

東洋館蔵

本草綱目

分類號	499.4
目次	Ki
原簿	11617 11614
國立中央圖書館	



